

LGBT への理解を進めるための活動の現状と課題

社会福祉学科 臨床福祉系 鷹木大輔

2019年現在、日本ではLGBTという言葉聞く機会が増えたが、政治家などによるLGBTへの批判的な意見も同時に注目されている。本研究では、先行調査について示しながら、LGBTに関連する活動を行う2名と地方公共団体1団体に聞き取り調査を行い、LGBTへの理解を進めるための活動の現状と課題を探り、当事者の生きやすい社会とは何かについて考察している。

先行調査から、LGBTへの理解は進んでいるものの、カミングアウト等の当事者の困難は未だ残っていることが分かった。そして聞き取り調査から、LGBTに関する活動によって、当事者の居場所づくりになるなど肯定的な効果が得られるが、効果の可視化の難しさから起こる拡散力の弱さや継続性の担保の難しさなどの課題も見られた。また、行政機関は市民の声が無ければ行動がしにくいという性質があり、行政機関が先だって動いてほしいという当事者の意見との相違が見られた。今後は互いに歩み寄っていく必要があると考えられる。